

教育支援活動コーディネーター等研修会 (家庭教育支援)

平成28年11月16日
13:30~16:00
津山市中央公民館 参加者36名

パネルディスカッション

「地域ぐるみで 子どもの育ちを支えよう」

【コーディネーター】赤磐市家庭教育支援チーム 杉山 順子 氏
【パネラー】真庭市家庭教育支援チーム 瀬島 ミチル氏
美作市家庭教育支援チーム 村上 園栄氏
奈義町家庭教育支援チーム 松村 謙 氏



パネルディスカッションの様子

★文部科学省は、すべての保護者が安心して家庭教育を行えるよう、学校や保健福祉機関等とも連携しつつ、身近な地域において保護者への支援を行う「家庭教育支援チーム」の設置や活動を促進しています。

管内でも地域の実情に応じた様々な支援活動が行われています。今回はそのうちの3地区についての取組やチーム員の思いを紹介しながら、フロアの参加者も巻き込んだ意見交換を行い、「家庭教育支援チーム」の役割やより良い支援等について交流していきました。

- 課題を抱える保護者を深刻化する前に把握し、支援することができる仕組みを模索している。就学前等、早い段階から保護者の不安解消やつながりづくりを支援することが大切だと思う。
- 「親育ち応援学習プログラム」は親の学びやつながりづくりに有効。地域の実態や保護者に応じた内容を提供したい。それぞれの地域で実態に応じたプログラムを作り、共有し合うことで活用が広がり、財産になる。支援者同士もさらにつながっていきましょう。



フロアからも質問・意見があり
活発な交流となりました

講話

「子どもの心の発達と家族の役割」

【講師】岡山県青少年健全育成促進アドバイザー
旭川荘厚生専門学院 非常勤講師 杉山 嘉弘 氏

- 3つの発達課題「信頼」→「自立」→「適応」という自己実現に向けた過程をたどることができる大人の支援が必要。その元となるのが温かい人間関係。スキンシップ、声かけ、アイコンタクト、笑顔、遊ぶ、聴く、ほめる等、意識して子どもと関わるのが大切。発達段階に応じた子どもの特性も理解しておくことで、子どもの言動に適切に対応することができるようになる。



杉山先生の講話の様子

アンケートより

- それぞれの地域に応じた様々な取組の様子を多面的に聞くことができ、参考になりました。支援員だけでなく、学校、地域と共に子育てをしていく大切さを実感することができました。
- 講話は自分が支援活動をする上で、大変参考になりました。支援者として、自分自身がアンテナをはり、様々な情報を得ていくことが大切であることに改めて気づかされました。そして、得た情報を一様ではなく、保護者一人一人に応じたものにして返していくことの大切さもよく分かりました。